

て突き詰めていかなきゃいけないだろうと。したがって、簡単に申し上げますと、これはなかなか簡単にはいかないぞと。3年、5年、10年かかるだろうと思っております。しかし、これをやっていかないことには、いつまでも我々高齢者は、ぼやいて終わりなんですよね。もう本当にいろんな方と会うと、高齢者の方はみんな、ぼやきですよ。でも、ちょっと見るところ、違う視点で見ようということは今いろいろ、私も自分自身も含めて、今年、選挙はないんですが、タウンミーティングしなきゃいけないと、そのように思っているところでございます。今後ともご指導いただきたいと思います。

○鈴木富美子議長 3番、勝見英一朗議員。

○3番 勝見英一朗議員 今回、小規模校のことを原点にしてお話をお聞きしたところなのですが、先ほど教育長からお話ありました廣田先生、文部科学省の廣田先生の、この将来構想検討委員会の提言書を頂きましたけれども、その提言書の中で廣田先生は、メリットとデメリットがあると。そのメリットを最大化し、デメリット、あるいは課題を最小化していくという考え方だということで、確かにそのとおりで、そのためには、課題をしっかりと見て、小規模校だから、こういうふうなところは仕方ないというふうにならないように、小規模校でこういう課題があったら、大規模校に負けられないようなものをつくっていくという、ぜひそういう心意気でいきたいなと思いながら、質問をつくったところでした。

また、周辺5地区の振興等についてもいろいろ考えるところがありますので、この先も質問させていただきたいと思っております。本日の質問は以上で終わります。

平 進介議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位2番、議席番号13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 おはようございます。共創長井の平 進介でございます。よろしくお願いたします。

初めに、さきの統一地方選挙、長井市議会議員選挙において、無投票ということになりましたが、3期目の当選を果たささせていただきましたことに、この場をお借りし、感謝を申し上げたいと思います。

長井市議会議員選挙始まって以来の無投票という結果に、市民の皆様からは、選挙はないと駄目だという強い声もいただきました。前回、前々回の市議選の選挙の結果により、当選回数を見れば、4期目2人、3期目6人、2期目6人、1期目2人と、一定程度世代交代は進んだのではないかと考えております。しかしながら、常に候補者の声が有権者に届き、有権者がその声を聞いて投票するという制度を堅持していく必要があります。議会の在り方が問われる4年間となります。コロナ禍も次第に収まってきましたし、活発な議会活動が求められ、議会もそれに応える活動を展開する必要があると思っております。議会と行政の関わり方については様々あると思いますが、その中でも特にこの一般質問は、議員として、より身近に直接的に市政全般にわたって行政に対して提案なり、提言できる場であり、議会における最も重要な場の一つであると認識しております。議会の権限である政策機能の発揮という姿勢を持ち続けながら、議員活動に邁進していきたいと思っておりますので、よろしくお願をいたします。

さて、3期目にして、初めて一問一答方式の一般質問を行わせていただきます。今定例会の一般質問は、大きく2点についてお尋ねいたします。前向きな答弁をぜひお願したいと思います。

1つ目は、本市の西山の山裾に民間による新たな観光複合レジャー施設が誕生いたしましたので、これらに関する幾つかの提言等を含め、お聞きしてまいります。2つ目は、少子高齢化に伴い、国においては、この4月にこども家庭庁が創設されるのと同時に、こども基本法が施行されました。こうしたこどもまんなか社会を推進する国の流れに沿って、本市としても子育て世代を応援する具体的な施策が必要ではないかという観点から、市長の見解をお伺いしてまいりたいと思います。

初めに、1番目の長井の新たな観光複合レジャー施設の誕生からについて、市長にお尋ねいたします。

長井市寺泉地区内に、新しい複合レジャー施設が誕生いたしました。ながいピオニーの森は、日帰り温泉、長井あやめ温泉ニュー桜湯の運営母体である株式会社手塚建材、手塚隆幸社長が周辺の土地を活用して2年前から整備してきたとお聞きしております。

ここで、山形新聞の記事から一部紹介させていただきます。去る5月19日の記事は、「花も眺望もキャンプも」、「日帰り温泉一帯にレジャー施設」との見出しであります。

長井市寺泉に「ながいピオニーの森」が21日、オープンする。長井の街並みを遠望する市西部の高台約3万平方メートルにシャクヤク（英語でピオニー）などの花公園や温泉、キャンプ場、宿泊用トレーラーハウスなどを集めた複合レジャー施設となる。

花公園は約8,000平方メートル。メインのシャクヤクは、花の維持管理が困難になっていた南陽市の諏訪神社から引き継いだものが中心で、5月から6月に約140種、4,000株が咲く、との記事ですが、今まさに見事に咲き誇っております。

さらに上部の高台には、天空ステージと名付けたテラスに「アルプスの少女ハイジ」の一場

面をイメージした大型ブランコを配置し、美しい景観が楽しめる。その近くには、ハーブ園、遊具を配置した人工芝のキッズパークを造る。キャンプ場は、約8,000平方メートルの敷地に、最大約30張りのフリーサイトと、車で乗り入れできるオートサイト（電源付き）6区画を整備し、6月中にも提供を始める。テントや寝袋、バーベキュー用品などのレンタルショップも設ける。ニュー桜湯は、午前10時から午後8時に入浴可能。隣のトレーラーハウス（4棟）は、大きさによって1棟に最大5から7人、2階建てのゲストハウス（1棟）には20人程度まで宿泊できるようにする計画だ。入場は無料で、キャンプ場など各施設の利用は有料。遊具は大型ブランコのみ有料とする。駐車場は約200台分を分散整備する。敷地内全体でフリーWi-Fiが利用できる、といった内容の記事であります。

先月21日のグランドオープン記念にお招きをいただきましたが、広大な敷地にシャクヤクが植えられ、バックの西山との一体感があり、壮観な感じを受けたところがございます。また、その頃には、色鮮やかなシバザクラがきれいに咲き誇り、花公園のアクセントになっておりました。

私は、一事業所でここまでしてくれるというのは、まさに地元愛でしかないように思います。企業の地域貢献とか言われますが、それをやるかにはのぐ整備だと感じました。私は、手塚社長の熱い思いをしっかりと受け止め、長井市としてこの施設を生かしたまちづくりをしていかなければならないのではないかと思います。

そうした観点で、順次市長にお尋ねしてまいります。

まず、（1）ながいピオニーの森オープンに当たって、市長として、この整備に対する思いと、事業者の姿勢をどのように受け止めておられるのか、お伺いをいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平 進介議員のご質問にお答えを申し上げます。

議員からは、ながいピオニーの森について詳しく説明をいただきましたけれども、私も当日はオープニングのセレモニーにお招きをいただいて、ここまでやっているんだと思って、正直びっくりしました。何回も何回もピオニーの森、工事中も含めて、お邪魔したことがあるわけですが、まず第一に、事業者である手塚社長の確かな熱意と、あと地元愛ですね。これは平議員おっしゃるとおりです。彼のスタンスとして、地域にある宝といいますか、資源、これは生かさなきゃいけないという強い思いがあったと思いますし、あとは、縁を非常に大切にする人なんです。まずは、地元の桜湯、せっかくの地元から湧き出た温泉を生かせない、これを何とかしなきゃいけないというふうに彼は思っていたと思います、直接聞いたわけじゃないんですが。それから、南陽市の諏訪神社のシャクヤクについて、譲り受けたという話を聞いておりました。それもいろいろな縁で譲り受けることになったんですけども、それを多分彼の構想の中では、自分がいわゆる骨材の事業者として、寺泉地区のみならず、長井市内、いろんなところから骨材を採取して、使わせてもらっているわけですが、そういった意味では、ああいう山の資源というのはずっと気にしてたはずなんです。今回、それにシャクヤク植える前に、植えながらですか、トレーラーハウスも、これは南陽市のハイジアパークから買ってくれと言われて、譲り受けたと。それを聞いて、何でそんなもん買ったのかなって最初思ったんですよ。ところが、彼は彼で、いわゆるアウトドアが、コロナの期間ですね、どんどんどんどん広がっているということをちゃんと理解してましたし、あとキャンプとか、そういうアウトドアの様々な醍醐味といいますか、それがこれから自分も

いろいろな意味でできるんじゃないかということで、そして、その中で、あそこいろんな自分の考えを展開させて、オープニングに至ったというふうに思っています。

あの中で、事業運営どうするんだろうなと思ってたんですが、すごくうまいやり方をしているんですね。それは、オープニングのときにちょっとチラシを見せてもらったら、スタッフ、事業者募集中とあるんですね。スタッフについては、あそこで働いていただくスタッフそのものもあるんですが、実は全て自前でやるということじゃなくて、自分の考えに共感してくれる人がいたら、その方はあそのピオニーの森の中でいろんな事業をやっていいですよと、基本、お金は要りませんというスタンスなんですね。ですから、あそこを見て、ぜひ自分もここで何かやってみたいという人には門戸を開いてると。それが話題になって、SNSなんかでかなり話題になって、いろんなところから多くの人を訪れてると。もうこれは、彼の事業者としての才覚、さすがだなというふうに思ったところございました。

ぜひ、これからの長井市の新たな観光複合レジャー施設をどう生かすかということについては、やはりこれは、私ども市は関わったのは、実は経済産業省の補助事業を受けて一部整備しておりますけれども、なかなか採択が難しかったようです。それについては、相談を受けて、私どもの当時の商工観光課の課長とか担当、あるいは産業参事などがいろいろアドバイスして、あと、私どもも東北経産局のほうには職員も派遣しておりますので、そういったところが情報収集などをして、見事、採択をされたということなのですが、長井市としては、やっぱり一緒に連携していくという考え方で、ですから、ピオニーの森はピオニーの森の自前でなっている民間の施設ですから、そこと我々、どういうふうにして連携して、より長井の新たなスポット

として、多くの市民、市内外からお客様に来ていただけるような、そんなお手伝いをぜひしていきたいなというふうに思っているところがございます。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 手塚社長の熱い思いに伝えていくことも大事だというふうに私も思います。

次にですが、(2)の花の長井にどうシャクヤクを加えるかについてお尋ねいたします。

シャクヤクは、5月下旬から6月頃に見頃を迎えるということですので、ちょうど白ツツジとアヤメの中間あたりが見頃になるのではないかと思います。つまり、5月に始まる白ツツジからシャクヤク、アヤメと、7月上旬まで切れ目なく花が咲き誇ることになります。この花観光という面で、今後どのように展開されていかれるつもりなのか、市長の見解をお伺いいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

シャクヤクとアヤメというのは、近い時期に咲くわけですね。その前のツツジであったり、桜、置賜さくら回廊であったり、もちろん関連がございます。1つは、私は、花観光については、長井単独で考えるべきじゃないと。私ども、観光については、行政の観光のお手伝いはどうあるべきか。あとは、観光協会に様々な事業を委託しているわけですけども、観光協会での観光振興、そしてもう一つは、私どもが中心になって、2市3町でつくっているやまがたアルカディア観光局、この広域連携DMO、旅行会社ら、こちらをそれぞれ役割分担しながら、長井市を、あるいは西置賜、置賜を活性化させようと、観光交流客を増やそうという考えでございます。したがって、長井単独で考えれば、この後、ハギがあって終わりなんですよ。ところが、すぐ隣の飯豊町ではユリがありますし、

その後、時期は2回あるんですが、バラも今の時期、南陽市のバラ、あるいは南陽市はキクもあると。あとは、夏の期間、8月あたりには白鷹町はベニバナであると。あと、やまがたアルカディア観光局には入ってないですが、隣の川西町はダリアであるということで、そういったところをもっとつないでいきたいというふうに考えております。長井市内の中で、特に今回のシャクヤクもそうなんですが、あとはハギあたりも、これははぎ苑さんも、これ民間の事業者さんですから、その辺などの連携をどうするかについては、市の観光文化交流課、あるいはやまがたアルカディア観光局の中でやっぱり具体的な旅行商品などもつくって、より多くの皆様をお招きいただけるような、そんな考え方を現段階ではしているところがございます。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 次に移ります。(3)の返礼品に施設利用券などはどうかという件についてお尋ねいたします。

ながいピオニーの森は、これまでの長井にはなかった大型の観光複合レジャー施設となっております。子供連れからお年寄りまで、幅広く楽しめる滞在型の施設となっているわけです。特にトレーラーハウスやオートキャンプ場などは、施設内の景観や里山の雰囲気と相まって、非常に人気の出そうな施設となるのではないかと期待しております。こうした施設を利用する際の利用券等について、例えばふるさと納税の返礼品の対象にして、施設の利用拡大を支援するというようなことなどもあるのではないかとと思いますが、こうした件について市長の見解をお伺いいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

平議員おっしゃるように、まだきちっと全部出来上がったわけじゃないんですが、トレーラーハウスやら、あるいはキャンプ場とか、使用

料なども決まっている部分もございますけども、ぜひこういったものをふるさと納税の返礼品の一つとして加えることは大変有効だと思いますので、もちろんまだピオニーの森のほうにはこういった話はしておりませんが、時期を見て、ぜひ、一番いいのは、今頃もう返礼品として扱って、この夏休みとか、あるいは暖かい時期に、すぐそばには今度は長井ダムの様々なウオーターアクティビティーを体験できるわけですから、そういったことも含めて、これは大変いいご提案だと思いますので、早速検討してまいりたいなというふうに思います。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 やっぱり支援策の一つとして、ぜひ検討いただければというふうに思います。

次にですが、(4)のふるさと納税用自動販売機やQRコードの導入についてお尋ねいたします。

ふるさと納税用自動販売機の設置につきましては、さきの一般質問でも提案させていただきました。このたびも大型観光複合レジャー施設が誕生いたしましたので、再度こうした観光施設や道の駅などにふるさと納税用の自動販売機やQRコードを導入してはどうかという提案をさせていただきます。

特に最近では、自動販売機といった経費のかかるものを置かずに、紙に印刷したQRコード、これを手持ちのスマートフォンで読み取って、表示された特設サイトに個人情報などを入力して納税する仕組みができてきているということを知りました。これであれば、自販機を設置するより、コストを省ける利点がありますし、場所を取らないという点でも有効だと思います。こうしたQRコードによるふるさと納税を促すシステムを構築してはいかがかというふうに思いますが、どうでしょうか、市長の見解をお伺いいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

議員からございましたように、自動販売機を活用したふるさと納税については、昨年の6月定例会でも平議員からご提案をいただきました。その際申し上げましたけれども、免許証などをふるさと納税用の自動販売機に読み取らせて、寄附金を現金またはクレジットカードで支払っていただきますと、お礼の品と引き換えできるレシートが発行されて、希望する返礼品と交換することができるというものでございます。さきの議会では、費用や設置場所など様々な課題を解決する必要があると答弁させていただいたところですが、1台数百万円のコストがかかる自動販売機導入は、やはり費用対効果の面で、そのときもお答え申し上げましたけど、ハードルが高いと考えております。

そんな状況の中で、今回新たに平議員からご提案いただいたQRコードを使ったふるさと納税のシステムは、議員ご案内のとおり、店舗などで準備するQRコードをお客様がスマートフォンで読み取りまして、表示される専用サイトから必要事項を入力し、決済すると、その場で希望する商品、返礼品をお礼の品として受け取ることができるというシステムです。自販機などのハード整備が不要であるということ、また、発送によるお届けが難しい賞味期限の短い新鮮野菜、出来たてのスイーツなど、その場で選んでいただき、提供できるメリットもあると思います。新聞報道などの情報によりますと、昨年8月時点で全国7つの自治体が導入し、最近では、福島県内で初めて導入した自治体がイベント会場で使用したところ、5時間半のイベント中に5件、合計11万円余りの寄附が集まったという実績があるようでございます。また、導入自治体の主なお礼の品の一つはゴルフ場の利用券などとなっていて、地域を訪れた人がその場ですぐに利用できる魅力に人気が集まっている

ようでございます。

長井市における昨年度のふるさと納税寄附額の決算額は過去最高のおよそ17億円を記録する見込みでございます。今年度においても順調に伸びている状況です。長井市を訪れていただいた方にその場でふるさと納税をしていただくためには、利便性もさることながら、やはり魅力のあるお礼の品を充実させることが重要だと考えております。QRコードを利用したふるさと納税の実施に当たっては、スマートフォン操作に対するサポート体制が必要になるなど、課題もありますけれども、利用者の利便性や費用対効果などを勘案しながら、引き続きふるさと納税を促す最適なシステムについて検討を重ねてまいりたいと思います。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 大変前向きに検討いただけたということで、ありがたいと思います。

それで、このQRコードで入っていった場合に、今、長井市でながいコインやっているわけです。ながいコインとして受け取って、スマホで市内で買物するということだと、非常に利便性高まるんでねえかというふうに思うわけですが、その辺のながいコインの活用についてはいかがでしょうか。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ながいコインは、いわゆる現金と同じカードなわけですね。ということは、返礼品としては、転売が可能なので、これは総務省の判断としては、極めてグレーですから厳しい。例えば以前、パソコンなど、ノート型のパソコンを置賜のある自治体でやってた時期がありました。これは、例えば高額なんです。15万円とか20万円ぐらいなんですけども、今どうなっているか分かりませんが、当時はやはり、それは転売できるんですね。こういったものについては不適切だということで、できなかった例がありまして、そういう意味でいえば、

ながいコインも、例えば3分の1ぐらい返すということですから、3万円を納税すれば、1万円の要は商品券ですよね、みたいなものがカードで買えるものが出てくるというのは、これはちょっと厳しいのかなというふうに現段階では思っております。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 そのようになれば、非常にいいのかなというふうには思ったわけですが、なお、検討いただければというふうに思います。

次に移ります。(5)のツーリング観光、ライダーが集うまちづくりについてお尋ねいたします。

近年、バイクツーリングが新たな観光需要を喚起してきていると仄聞しております。ここ数年間の新型コロナウイルスの蔓延によりまして、密を避けた屋外でのレジャーといったものがブームとなってきているということのようであります。私は、バイクツーリングはしませんが、若い時分に乘ったバイクの頬などに風を受ける爽快感、こうしたものは格別なものがあると感じております。長井市内にもバイク愛好家は多いと聞いておりますし、そうした方々を介してのツーリングなどもあるとお聞きしております。こうしたツーリング観光、ライダーが集うまちづくりを推進してもいいのではないかとこのように思うわけですが、市長の見解をお伺いいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平議員おっしゃるのは、よく分かります。これ言って大丈夫だと思うんですが、やっぱり総宮神社さんが大変SNSを通じて発信しているもんですから、土日は一番多いですけど、平日も相当の方がいらしていただいていると思います。これは多分、大都市部だと、ライダーとして走って、そこまで爽快感ないわけですね。ところが、長井ですと、程々いろんな、

田園風景を走ったり、あるいは山岳を越えて来たりとか、そういった意味では、總宮神社さんの安部宮司さんがいろいろ発信して、それに大変マッチングしたんでしょうね。ですから、これすごいものがあると思います。市のほうからは、總宮神社さんのほうに、一緒に、じゃあ、何かやりますかみたいなことは言ってないです。なぜかという、先ほどの手塚社長もそうなのですが、観光というのは、私ども行政での観光は、やっぱり主役は民間の事業者さんなんですね。市が主役ではないわけですよ。事業主体になれないわけですよ。ですから、そういった意味でいえば、例えばかなりライダーもいっぱいいらっちゃって、場合によっては、20台ぐらいで騒音をまき散らすというケースもあるんですよ。そういったところは、かなりいらっしゃる方には注意喚起していると思います、というのは、ほとんど立派な方たちだけですので。ですから、こちらからあんまり働きかけはしてないんですけども、やっぱりピオニーの森もそうなのですが、そういう民間で頑張っている方とは連携しながら、市の例えば観光ポータルサイトで紹介したり、あとは、様々な市の紹介をするときに、その一つの安全祈願といいますか、バイクのね、ツーリングの紹介とか、あとピオニーの森もそうなのですが、そういったことで協力しながら、より多くの人に長井市にお越しいただけるような、そういった取組もこれから検討していかなきゃいけないというふうに思っております。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 今、市長からありました總宮神社さん、安部宮司さんですが、これやまがたアルカディア観光局で発行しておりますパンフレット、15号というんですか、#15というんですか、に總宮神社の宮司である安部義朋さんの写真も記事入りで入って、掲載されております。これちょっと中読ませさせていただきます

と、バイクツーリングクラブの仲間からはバイク神社とも呼ばれており、年間7,000台以上のバイクが集うようになったということです。最近のツーリングは、新種のライダーというか、あの大きいバイクは、そんなに若い人は乗りませんから、往年のライダーが多いとお聞きします。こうした地元の力、活動の素地があるということでもありますので、これもぜひ生かしていったほうがいいんじゃないかというふうなことであります。例えば道の駅などに、バイクも休憩に入るわけですが、エアゲージみたいな、空気圧調整をするような、そうした場所なども少し準備して、支援するというか、応援するみたいな、そんな感じもあってもいいのかなというふうにも思うわけですが、その辺は、市長、いかがでしょうか。

○鈴木富美子議長 内容重治市長。

○内容重治市長 エアゲージといいますか、こういったものを道の駅あたりで準備しとくという、ケアみたいなものも大変いいことだと思います。やはり私どもとすれば、道の駅でそういったことも必要なのですが、市内のガソリンスタンドとか、そういったところにも呼びかけまして、ライダー歓迎と、エアゲージありますよみたいなところの紹介もしていく。結局、多分總宮神社さんも、やまがたアルカディア観光局の会員になっていただいているはずなんですよ。多分ピオニーの森もなっただけだと思うんですが、結局、そういうやまがたアルカディア観光局も、あるいは我々も、民間の皆さんが、我々がいろいろ応援することによって、より多くの方にお越しいただいて、ビジネス上も非常にうまくいくような、そんなことをやっぱり考える立場だと思いますので、おっしゃるとおりなんですけど、道の駅にもしても、あと、ガソリンスタンドにも働きかけて、ぜひ給油もお願いしますと、ゲージもちゃんと見ますよみたいなところのご協力を山形県石油協同組合長井支部です

か、そういったところにも併せて呼びかけたいと思います。

なお、今、コロナ禍で休んでたんですが、たしかはぎ苑さんで何回かやったんですね、大型のバイクの集まりといいですか。多分はぎ苑の社長なんかも結構乗ってます。結構長井でもいっぱいいらっしゃるんで、そういったことも兼ねて、働きかけをして、ぜひはぎ苑さんでもやってもらうとか。あるいは、道の駅ですと、一般のお客さん、入らなくなるんです、あれだけの駐車場なんでね。ですから、ライダーの方って、いろんなバイクを見るのが楽しいですよ、あっ、これすごいいいなとか。で、見せたいというのもあるらしくて、そういったことなども併せて、平議員からご提案いただいて、一緒に働きかけなどもしていくべきかなと思っております。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 總宮神社、バイク神社と仲間からは言われているようですが、全国的にもバイク神社って結構あるらしいんですけど、その一つが總宮神社というふうなことでありますので、ぜひこうしたところも生かして、にぎわいのある長井市の観光づくりにしていただければいいなというふうに思います、何か聖地というふうな言葉もあるようですから。

次に移ります。(6)の市道置賜西部2号線を生かした観光交流戦略についてお尋ねいたします。

長井市の観光交流施設の多くは、市道置賜西部2号線沿いに配置されております。南のほうからいきますと、長井ダム、三階滝、そして、このたび新たに開発、整備されました複合レジャー施設、ながいピオニーの森、古代の丘、そして、その北側の途中に利根林展望台があります。この利根林展望台は、西根地区環境整備促進協議会が整備したものでありまして、置賜西部2号線からは、なかなかあの道路、見晴らし

のよいところがないというふうなことで、地権者等との了解を得て、心のまちづくり基金や協働のまちづくり支援事業、こうした事業の支援をいただいて整備したというふうにお聞きしました。車で移動する方のちょっとした休憩場所と共に、長井市内や南陽市等まで見渡せる展望台として、ちょっとした人気スポットとなっているようです。さらに北に進んでいきますと、勸進代の三吉公園、白兔の葉山森林公園があります。こうしたいわゆる西山山麓を横断する市道置賜西部2号線を生かした観光交流戦略が必要ではないかというふうに思うわけですが、市長の見解をお伺いいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

平議員おっしゃるように、いわゆる広域農道ですね、にはまだまだたくさんの資源もありますし、これから、古代の丘を含め、ピオニーの森もそうですし、百秋湖もそうなのですが、周りにたくさんの観光資源がまだまだこれから出てくると思うものもありますけども、そのときに戦略というふうに考えた場合は、やっぱり通過型では実はあまり効果がないんですね。戦略って考えた場合は、例えば、去年は地元の人たちでぼくらの文楽を変えたわけですけど、ああいうふうにして地元の人たちと触れ合う、交流できる、それが戦略としては必要だと思うんですね。いわゆる利根林の展望台から、あるいは古代の丘の縄文村を見て、そして、ピオニーの森で何かおいしいものを食べて、長井ダムの百秋湖でSUP(サップ)を楽しむ。これはこれでいいんですが、やっぱりそれだったら、どこかに泊まって、地元の人と交流できる、いわゆるそれが私ども行政が求めている観光交流の在り方だと思うんですね。したがって、広域農道沿いの観光戦略というよりは、それも生かしつつ、長井市のいろんな市民の皆さんと交流できる、そういうことを用意しなきゃいけないんで

すね。多分それがいろんな団体であったり、いろんなレストランであったり、あるいはピオニーの森でトレーラーハウスでキャンプを楽しんで、地元と一緒に何か交流できるとか、そういったことが戦略としては必要なんだと思うんですね。

したがって、広域農道を主体として考えたときに、できれば以前から西根のコミセンなどでもお話があった、例えばワイナリーを造りたい、あるいは、例えばあそこのキャンプで宿泊したいとか、それとあと、地元の人と交流会があるような、そういうふうな仕組みづくりなどもやっていきたい。その場合は、どちらかというところ、いろんなところの観光地を巡りますよというよりは、むしろここ西根の人たちと、あるいは平野の人たちとか、例えばライダーの人たち、地元のライダーと外から長井にいらしたライダーの交流会とか、そういうことでつながることによって、観光交流、そして、お金を地元でいろいろ消費していただくような、それで経済的にも、あるいは人とのつながりでリピーターとして何度も来ていただける、すなわち、これが関係人口みたいな形でどんどん増えていくことが地域の活性化につながると思っておりますので、議員おっしゃる置賜広域農道もうまく利用しつつ、それを包含した観光戦略をやっぴりもう一回加えていかなきゃいけないと。ちょうど第2期の観光振興計画を立てたところですが、その中身と今回、平議員からいただいた提案というのは一致いたしますので、それをどういふふうに具体的に計画として事業に変えていくかということなどを今年度からスタートいたしますので、ぜひ検討していくように担当課とも話していきたいなというふうに思います。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 今後のそうした拡大に期待を申し上げたいというふうに思います。

次に、この項の最後となります、(7) トイ

レトレーラーを導入してはという提案をさせていただきたいと思っております。

長井市には、長井盆地西縁断層帯があります。これは、朝日町から本市を通り米沢市に至る断層帯で、長さは約51キロメートルと言われております。地震規模はマグニチュード7.7程度と、巨大地震であります。発生確率は30年以内に0.02%以下と推定されておりますが、一旦発生すれば、多くの人的被害等が予想されます。何より、地震発生確率はあまり高くないとしても、必ず巨大地震は発生するということであります。本市でも、こうした自然災害対策として様々な防災用具の備蓄などを進めておりますが、災害時において最も不便な状況に陥るものの一つがトイレだと思っております。そのため、今回、牽引型のトレーラータイプのトイレの導入を提案したいと思います。

このトイレは、入り口が独立した水洗の洋式トイレが4部屋あって、手洗い台や機械式の換気システムを備えております。貯水タンクや汚水タンク、太陽光発電機と組み合わせた蓄電設備が備わり、被災地でも自立して運用ができるというものであります。水道や下水、換気があれば、普通のトイレとしても利用可能とのことであります。渡部秀樹議員のように、チラシというか、資料としてこういったものだって分かりやすくお出しできれば、大変よかったです。そこまでちょっと今回準備できませんでした。

この整備事業費には、国の緊急防災・減災事業債を充当することが可能というふうに聞いております。これが適用になれば、充当率100%で、7割の交付税措置がありますので、実質市の負担は3割程度というふうになります。ふだんはイベント等で活用して、災害時のトイレ問題の普及啓発を行うというものに使っていきます。今後のインバウンドを含めた観光交流事業を展開するときに、このイベントでの使い勝手

のよい洋式トイレは必ず必要になってくるというふうに思うわけですが、こうした導入について、市長の見解をお伺いいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平議員おっしゃるように、緊急防災・減災事業債使えますし、大変有利な、そういった緊急防災・減災事業債がいつまであるかも、ちょっとなかなか延長延長で来てるのですが、分からないので、必要な場合は、これ検討しなきゃいけないというふうに思います。

課題としては、自力で走るやつじゃないので、牽引するやつがメインなんですね。例えば、こういうやつですね。そうすると、車で牽引しなきゃいけないんですよ。牽引するための牽引車と、あと人の配置というのが必要だと。これは、必要だったら、担当を決めて、あと牽引車も一緒に買えばいいんですが、やっぱり1両でいいのかということもあるわけですよ。あとは、全長が12メートルぐらいになるんだそうです。ですから、なかなか使い勝手が悪い、小回りが利かないということなので、確かに通常はレジャーとか、何かの観光のときに使ってもらって、いざというときは避難所あたりでということももちろんあると思いますが、この辺については、ちょっと今回は観光面でのご提案でございましたけれども、防災上も考えながら、ぜひ、せっかくご提案いただきましたので、具体的にどうすべきか検討してまいりたいなというふうに思います。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 富山県の魚津市あたりでは、トレーラー本体の費用が2,600万円で、全体を含めて3,200万円ほどというふうなことも聞きました。一般財源を充てる部分については、ふるさと納税型のクラウドファンディングなども活用しているというふうな事例などもあるようですので、ぜひこうしたことも検討いただいて、導入に向けて考えていただければあり

がたいなというふうに思ったところですよ。

次に、2項目めの子育て世代の支援対策についてお尋ねいたします。

冒頭申し上げましたように、本年4月、こども家庭庁が創設されました。同時に、こども基本法が施行されました。法律の目的とするところは、全ての子供や若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会を実現するためとしております。子供施策の基本理念などを明確にし、国はもとより、都道府県や市区町村など、社会全体で子供や若者に関する取組、子供施策を進めていくとされております。

そこで、(1)であります。こどもまんなか社会の子供条例の制定について、長井市においても子育てと教育を柱としてまちづくりを進めているわけですが、こども基本法の施行に伴い、全国的にこどもまんなか社会を推進するための子供条例を制定する自治体が出てきております。市長には、こうした動きと子供条例を制定することについて、どのように考えておられるか、お伺いをいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平議員おっしゃるように、こども家庭庁がこの4月にスタートいたしまして、同時に、こども基本法が施行されたところです。それを受けての子供条例というのは、これはいずれ必要だろうというふうに思います。私は、この条例を競って、どこが一番早いかなというふうなことで競って条例を制定するのではなくて、長井市として、国のこども家庭庁、あとこども基本法、その中身で、国がどんな施策を考えているのかということをよく見極める必要があると。あわせて、やっぱり私どもも今年からこどもまんなか社会という、議員からもございましたけれども、子供たちが、先ほども勝見議員のときに申し上げましたけれども、20年後、30年後に社会で幸せに暮らせるためには、どういう社会を我々、つくんなきゃいけないのかということ

をやっぱりこれ独自に、我々長井市は長井市の独自の考え方というのは必要だと思うんですね。

後でもいろいろ出てきますが、例えば競って、今、地方自治体は、例えば医療費無料化はゼロ歳児からもう高3まで、特に東北とか山形県、先んじて、もうなっているんですね。西のほうは、まだ中学校ぐらいまでというのは多いんですけども、その次が、例えば医療費の無料化の後は、いわゆる保育料の無償化だ、その次は学校給食の無償化だ、それを自治体同士で競うなんていうのは愚の骨頂。やっぱりこれは国でしっかりすべきですよ。その中で、その市町村、市町村独自の施策をそれに加えるというのが重要だと思っているんですね。この間、全国市長会の中でもいろいろありましたけれど、例えば学校給食費の無償化とかは、やっぱり国でちゃんとやるべきだと。やっぱりやれない自治体も絶対出てくるはずなんですよね。そしたら、子供の奪い合いじゃないかと。しかも、こっちは甘いぞ、こっちには何もないぞ、それは違うだろう。その上で、我々市町村は、地域の独自の在り方を模索しながら、本当に子供たちが長井市に住んでよかったと思ってもらえるような、そういうまちにしなきゃいけない。したがって、子供条例については、ぜひいろいろご意見をいただきながら、つくっていくと。ただし、その中身が問題であって、その条例をつくって、いかに実践するかですよね。今までの長井市の例を見ますと、あまり先輩の悪口は言えませんが、条例だけで、バルーンは上げるんですよ。でも、何にもしないと。やっても形だけ。これでは、つくった意味がないと。まさにこどもまんなか社会だから、子供条例をつくるんなら、それに基づいて何をするかということも、基本計画も一緒に立ててやるべきだと思いますので、ぜひいろいろご指導やら、ご助言をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 条例については、市長がおっしゃるとおりだというふうに思います。

次に、(2)の第2子以降の支援拡充についてお尋ねいたします。

もう既に今、市長のほうから、まず大方答弁、何かあったような感じもするわけですが、保育料の無償化、給食費の無償化の2点についてであります。この件につきましては、これまで議員諸兄の一般質問等においても提言されてきたものであります。このたび、特に国においてこども家庭庁の設置やこども基本法の施行に伴い、国や都道府県、全国の市区町村挙げて子育てを支援していこうという機運の醸成が出てまいりました。第2子以降の保育料の無償化や給食費の無償化には、当然財源対策が必要であります。これまでの議論の中では、長井市の財政事情では厳しいといった答弁がなされてきたと認識しておりますが、これまで待たなしの公共施設整備事業も遊びと学びの交流施設「くるんと」が7月に完成予定でありまして、一通り終了するものと認識しております。今後の公債費の償還などの課題もありますが、次は、子育て世代の支援施策が最も重要となってくるものと思います。長井市で子育てをしていただくための重要な施策の一つだというふうに思っております。ふるさと納税は、先ほど市長からありました、令和4年度、昨年度は17億円程度になりそうだというふうなお話であります。このふるさと納税は、一般財源として活用できる財源であります。恒久的なものとしては不十分で、不安定な財源ではありますが、それでも、それらを活用し、支援拡充を図っていくことが必要だと思っております。

なお、この件について、8番目に今泉春江議員から学校給食費無償化実現についての質問があります。私は、当然第1子から全部無償化をすべきとは思いますが、市の財政状況等を勘案し、まずは、第2子以降から無償化をしてはと

いう立場で質問しております。

なお、学校調理場では現在、市内の児童センター等への給食も提供しておりますが、このたびの質問については、小・中学生の給食費に焦点を絞ってお聞きしたいと思います。

また、今、市長からありましたとおり、子育て支援に係る保育料の無償化、ゼロ歳児から2歳児、それから、給食費の無償化については、まず、国において実現すべき課題だと思っております。当局においても、地方六団体、議会も当然入っておりますが、地方六団体と共に国に対して働きかけていただきたいというふうに思いますし、議会としてもそうした運動をしていかなければならないというふうに思っておりますが、そうした働きかけをしながらも、一部でそうした自治体としてできる部分について、少しずつ進めていくという姿勢もあっていいのではないかというふうなところもありまして、今回の質問をさせていただきたいというふうに思います。市長の見解をお願いいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平議員からは、大変配慮あるご質問をいただきまして、ありがとうございます。

特にゼロ歳児から2歳児までの保育料については、これまだ無償化になってない。ただ、山形県のほうで、いわゆる所得層がいろいろあるわけですが、その層について、知事の任期の期間中は支援するんだということについて、私ども市長会としても、1回やったら、それはずっと続けなきゃいけないから、ロードマップを示してほしいとか、いろいろありましたけども、ただ、それをやることは決して悪いことではありませんので、私どもも協力させていただいてます。やっぱり重要なのは、所得ももちろんなのですが、あとは、第1子は何とか頑張ってもらって、第2子とか第3子とか、そういうお子様のいらっしゃる家庭について、何らかの支援を少しでもやるというのが、我々とし

ては少しでもやってあげたいというのが実情でありますし、給食費も全く同じです。財源については、ふるさと納税というお話もございましたけども、実はふるさと納税が置賜の3市5町では、私ども、トップなはずなんですけども、これ本当懸命にいただいているんですね。本当この努力はすごいです。そのいわゆるふるさと納税、頂いたお金で一般財源が割と細かいところまで予算ついてるはずなんです。それが結局、学校給食とか保育料にという、削らなきゃいけない。もしくは、その分をさらに上乘せなきゃいけないということで、私どもとしては、今年、20億円を目指してやっていくということで、少しでもそういう財源をつくりながら、やっぱりおっしゃることはごもっともですので、今後頑張っていかなきゃいけないと。

なお、学校給食については、私どもとしては、長年の宿題である昭和40年代の学校給食共同調理場を新たなものにしたわけですよ。なおかつ、山形県内でどこもやってない、全てのお子様にアレルギー対応食を提供するという努力もしているわけですよ。ですから、そこでは今、頑張っているんですね。ですから、第2子とか第3子については、置賜の中では南陽市と高島町が頑張っているようですが、私どももやっぱりそういったご家庭の負担なども考えて、先ほど申し上げましたように、何とか、議員がおっしゃること、ごもっともなので、少しでも子育てしやすい、経済的にも助かるというような状況をつくれるように努力してまいりたいというふうに思います。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 ぜひ地方六団体と共に、とにかくやっぱり国ですべきことであるというところを基本にしながら、当局も、議会も共に働きかけていかなければならないというふうに思いますし、その間にあっても、長井市としても、できるところについてはぜひご支援できる

ような形でお願いできればというふうに思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 ここで暫時休憩いたします。
再開は午後1時といたします。

午前11時59分 休憩

午後1時00分 再開

○鈴木富美子議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

なお、渡部秀樹議員から、資料の配付について申出があり、会議規則第150条の規定により、許可いたしましたので、ご報告いたします。

鈴木 裕議員の質問

○鈴木富美子議長 それでは、順位3番、議席番号4番、鈴木 裕議員。

(4番鈴木 裕議員登壇)

○4番 鈴木 裕議員 皆さん、お疲れさまです。一般質問の初日3番目、清和長井の鈴木 裕です。一括質問、一括答弁方式で質問をさせていただきますのでよろしく願いいたします。

さて、今年のゴールデンウィークは、皆さんはどのように過ごされたでしょうか。私の場合、年の経過とともに車庫2階の物置小屋に様々な物が増えてきており、スペースが足の踏み場もなくなるほど狭くなってきておりました。そこで、亡き父と母の遺品と共に子供たちの使った学習教材などを含め、不必要な物を思い切って断捨離するべく決心し、4月29日から5月7日

までの9日間、ほぼ毎日仕分けしながら処分することに明け暮れました。仕分けするにも宝になるのではないかという品物とか、遺品については捨てるよいかどうか悩ませるものとか、記録をつづった書物もありますし、ガラスケースに入った人形をそのままごみとして処分はできないし、いざ始めてみると分別作業も大変で、かなりの労力と時間を要しました。

人形類は、共同ご供養とお焚き上げをしていただき、書籍類は地区子供育成会で資源ごみ回収を連休の最後の日に行われるとのことから、何としても間に合わせようと思い、結果、軽トラックいっぱい紙類を再生資源として供出することができ、自己満足したところであります。

しかし、片づけた後、改めて見てみますと、あれだけ処分をしたはずなのに物が減った感じが感じられず、今後もこつこつと地道な断捨離を続けなければならないと感じたところであります。

そうした作業している折、非常に興味深い資料を発見しました。長井市が誕生したときの昭和29年12月10日発行の長井市報第1号から昭和35年3月10日発行の第47号までのつづりです。ところどころ抜けてはいますが、新市が誕生して組織も新たになり、議会も変遷し、当時のまちづくりの重点事業の取組や市民生活の様子が事細やかに記されていて、昭和30年代前半の本市の歴史を知る上で非常に参考になる、貴重な資料でありました。

ここで、紙面から一部紹介させていただきたいと思います。

長井市報第1号によりますと、長井市が誕生したのは昭和29年11月15日、長井市組織機構は、市長、助役、収入役に総務課、税務課、土木課、産業課、厚生課と出納室であり、旧村役場5か所が支所となっています。

議会は、11月15日に議員89名による初議会が開催され、市議会議長、副議長、総務委員会、